児童・生徒への一人一台の端末の配布についての学生意見（例）

A（伝統型、紙、鉛筆、黒板)

児童・生徒に1人一台PCタブレットが配布され、便利に感じたように思えるが、従来通

りの黒板とチョーク、紙の教科書、ノートによる授業が良いと思う。理由は、3つある。

　1つ目は、タブレットの使用が、脳の発達に悪影響を及ぼし、集中力・気力・記憶力

の低下を引き起こす可能性があるからだ。児童や生徒の頃の年齢は脳が一番成長すると

言われている。そのことが昔からわかっており、AppleのやMicrosoftの開発者は我が子

には一切触らせていないそうだ。また、一日に何時間も電子機器を触ることで、依存に

なる確率が高くなる。

　2つ目は、教師の負担だ。電子機器が苦手な教師がおり、その負担が大きいように思

うからだ。今までアナログだった現場に急遽デジタルが導入され、慣れるのに精一杯だ

と思う。

　3つ目は、鉛筆を正しく持てない子供が増えているからだ。正しく持てないと文字が

うまく書けず、就職活動などの書類で苦戦すると思う。

　これからの時代はデジタルだと言われているが、オールデジタルだと、データ紛失や

ネットいじめなど取り返しのつかないことが増えてしまう。一番良い方法はアナログと

デジタルを両立することだと思う。

Ｂ（デジタル教育の推進）

私はどちらも良いと思いますが、どちらかというと、Bの教科書もデジタル化され子どもは一人一台パソコンを持って学ぶ形の方が良いかな、と考えます。

　やはりICT教育にすることでのメリットが大きく子ども達の学力向上や意識向上につながると思います。メリットの一つ目で分かりやすい授業を実施できる環境になれることです。一般的な授業では、教師の説明や黒板の板書、教科書によって授業を受けているが、パソコンを持つようになると、映像や音楽なども利用できるようになる。つまり、生徒達が授業中に受け取る情報量が多くなり、より「分かりやすい授業」を展開できます。

　二つ目は、板書の効率が上がり、見た目も美しく理解しやすいことです。また、黒板に説明図などを書くのは教師にとって手間がかかり、特に複雑な図形などは作成に時間がかかっています。しかし、電子黒板などを利用することで、このような教師側の手間も軽減でき、別に用意された図形のデータなどをそのまま使用すれば美しく分かりやすい板書を簡単に作ることができます。

　三つ目は、板書の時間をとる必要がなくなり、時間を有効活用ができることです。電子黒板で表示された内容を生徒たちのタブレットに送信して保存すれば、生徒達は黒板と同じ内容をいつでも表示でき、間違いがなくなり、書き写す時間がなくなるので授業時間を最大限有効に活用できます。そして、生徒にとっては、分かりやすく楽しく授業を享受できるメリットを生み出します。

　最後に機器の使い方や、情報検索に慣れることができることです。ICT機器は、企業でも日常的に使用されています。社会で出た後でICT機器の操作を覚えるのでは、仕事をスムーズに進めることは厳しいです。学校で日頃からICT機器を扱えば、基本的な操作ができる状態で社会人になることができます。また、インターネットの利用も社会では必要不可欠です。授業で分からないことをインターネットで調べる経験をしていれば、社会人になってからもその技術がそのまま役に立つと思います。自分自身で調べるという姿勢が身につき、多くのことを学びたいという好奇心を持つことが出来ると思います。

以上のように、教師と生徒の双方にメリットが多い、教育方法です。今後はさらにICT機器の性能が高まり、社会に出てからもこれらの機器を使いこなす能力が求められてくると思います。なので、子どものうちからパソコンで学習し、学習した方が良いと考えました。

AB（併用）

今日では、グローバル化の影響、新型コロナウイルスの影響などにより教育のデジタル化を急速に進めようとする動きがみられる。これまでは、教育のデジタル化は、教師用の電子黒板や教師用の教科書のデジタル版などが主で、児童生徒用のデジタル教科書の普及はまだ先であると考えられていた。しかし、新型コロナの休校があって、児童生徒用の教科書やタブレット(PC端末)の配布が、全国一斉に行われた。これにより、これまで黒板、チョーク、紙の教科書、ノートを使っての授業が、電子黒板、一人1台のタブレット(PC端末)、デジタル教科書を使っての授業になり、授業の形態、教師の役割、子ども同士の関係、宿題なども大きく変化することが考えられる。私は上記のように教科書もデジタル化され、子どもは一人一台パソコンを持って学ぶ形態よりも、従来通り、黒板とチョーク、紙の教科書、ノートによる授業の形態のほうがが良いと考える。そのように考える理由を、黒板とチョーク、紙の教科書、ノートによる授業(A)と教科書もデジタル化され、子どもは一人一台パソコンを持って学ぶ形態(B)の特徴を通して説明しようと思う。

まず、(A)については従来型のスタイルであるため、児童や教員も扱いやすい形態となっており、授業の運営が潤滑に行うことができると考えられる。また、児童の保護者も(A)の形態で授業を行ってきたと考えられるので、子供がわからないことにも対応できるだろう。しかし、近年急速に発達しているグローバル化やコロナによるリモートでの形態に対応するのが困難という点が挙げられる。

一方、(B)についてはコロナなどによるリモートワークの際、紙やノートだけでは対応しきれていない部分を補うことができる。また、グローバル化やデジタル化に伴い、必ず使うであろうパソコンやタブレットに小さいときから触れておくことで、そのような社会に対応する力が身につくと考えられる。しかし、日本経済新聞では、「デジタルの知識や技術の乏しい教員の下でのデジタル教科書の使用は、危機のトラブルも頻発し教育効率は上げられない。」や「紙での教育方法を研鑽し、伝統と文化の下で学力のみならず、人間性も育ってきた。デジタルのみで維持されるのだろうか。」などと書かれている。このことから、(B)には問題や課題が数多く存在しており、現時点では急速なデジタル化は困難であることがわかる。

今回、学校教育における急速なデジタル化について(A)か(B)のどちらかについて自分の意見を述べたが、実際にはどちらか一方を選ぶのではなく、どちらも併用しそれらの利点を遺憾なく発揮するのが最も大切であると私は考える。